

「第2回高校生 食のSDGsアクションプラングランプリ」最優秀賞は 栃木県立矢板高等学校「農業経営科農業技術部」

流通科学大学（神戸市西区／学長：藤井啓吾）は若い世代が食に関する課題の解決策を競う「第2回高校生 食のSDGsアクションプラングランプリ」を開催した。今年度は、39校 51チームがエントリー。12チームの最終審査が11月11日（土）に行われ、栃木県立矢板高等学校「農業経営科農業技術部」が最優秀賞に輝きました。

◆最優秀賞

学校名：栃木県立矢板高等学校

チーム名：農業経営科農業技術部

テーマ：その時、牛たちはどうする？ ～地域と連携した持続可能な畜産への挑戦～



◆優秀賞

学校名：佐賀県立高志館高等学校

チーム名：食品クラブ

テーマ：イノシシ肉を使った「いのパン」の開発とジビエ肉の普及活動 ～持続可能な食料生産に向けて～

◆審査委員特別賞

①学校名：青森県立名久井農業高等学校

チーム名：FLORA HUNTERS AQUA

テーマ：Gray Water is Magic Water～乾燥地の食糧生産のために～

②学校名：栃木県立真岡北陵高等学校

チーム名：食品科学研究部

テーマ：芳賀郡における野菜充足度向上に向けての取り組みについて

- ③学校名：兵庫県立農業高等学校
 チーム名：発酵技術研究会
 テーマ：農業を活かした持続可能な食づくり～品質と栄養が高く、安心安全なものを毎日たくさん食べるために～
- ④学校名：兵庫県立佐用高等学校
 チーム名：うちちゃん
 テーマ：佐用町から SMILE を◎
- ⑤学校名：京都府立桂高等学校
 チーム名：菌類研究班
 テーマ：菌でおいしく循環する方法

<「第2回高校生 食のSDGsアクションプラングランプリ」概要>

学校法人中内学園 流通科学大学の創設者であり、ダイエー創業者である中内功の生誕100年を機に本グランプリを2022年に創設。中内は、壮絶な戦争体験から「流通が機能し、世界中に食料や資源が行き渡れば、人が争いモノを取り合うことはなくなる」という信念のもと、生涯をかけて平和で豊かな社会の実現に挑み続けました。当時の中内功の想像を超える変化があった日本。さまざまな困難を克服してきましたが、新たな問題が出始めました。それが「SDGs（持続可能な開発目標）」。「SDGs」の範囲は広く、「貧困をなくそう」から始まる17の目標があります。その中でも中内功がこだわった「流通」と「食」に関わる問題に注目いたしました。

メインテーマ：『豊かで持続可能な食を目指して』

サブテーマ：これからも安心・安全な食生活を送るために、幅広い世代で取り組める活動を企画・提案しよう

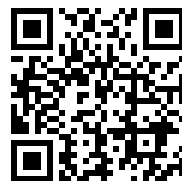
応募数： 39校・51チーム

- <主催>** 学校法人中内学園 流通科学大学
<協賛> 一般社団法人全国スーパーマーケット協会 日本チェーンストア協会
<後援> 文部科学省 農林水産省 環境省 消費者庁 兵庫県教育委員会

審査委員

委員長	流通科学大学 学長	藤井 啓吾
副委員長	消費者庁 長官	新井 ゆたか
委員	日本チェーンストア協会 副会長	井上 淳
	一般社団法人全国スーパーマーケット協会 事業部次長 兼 事業創造室長	富張 哲一朗
	特定非営利活動法人ジャパン・フィルムコミッション 顧問 学校法人中内学園 理事	田中 まこ
	流通科学大学 商学部マーケティング学科 准教授	後藤 こず恵

特設サイト <https://www.umds.ac.jp/sdgs/action-plan/>



広報活動全般に関するお問い合わせ先
 流通科学大学 広報室（幡谷・津田） 〒651-2188 神戸市西区学園西町 3-1
 電話 078-794-3555(代表) Eメール Ryuka_Koho-1@red.umds.ac.jp